

2023年7月秋田豪雨に伴う五城目町の浸水被害と「受援」体制の重要性
 Flood damages of Gojome town by heavy rainfall in Akita Prefecture
 on July, 2023 and Importance of Supported System

○加藤 幸¹ 千葉 克己²

KATO Koh CHIBA Katsumi

1. はじめに

昨今、極端な気象現象が増加しており、従来では考えられなかった規模での自然災害が多発している。秋田県では2023年7月の大雨で県を中心とする秋田市に大規模な浸水被害を生じた。このとき、周辺の小さな市町村でも大きな被害が数多く生じた。五城目町もその一つで、町の中心を流れる馬場目川が溢水し、655世帯、農地400ha超に浸水被害を被った。同時に、町の浄水場が被害を受け約8日間にわたり断水を生じたほか、物流の拠点の秋田市が被害を受けたことから物資の不足を生じた。

大きな災害が起こった場合、小さな自治体の被害状況やその後の対応については、時間の経過に伴い注目が薄れてしまうことが多い。本報告では、五城目町の被害状況と町の対応の中から見えた支援と受援の繋ぐ仕組みや体制の重要性について報告する。

2. 対象と方法

五城目町(Fig.1)は秋田県中央部に位置する町で、秋田市から北に30キロにある。町の東側に山間地、西側に市街地と農地が広がっている。面積215km²、人口約8千人の小さな町で約500年前から続く朝市で知られる。町の中心を流れる馬場目川は秋田県最大の2級河川で、富津内川などいくつかの河川と合流し八郎潟調整池に流れ込む。



Fig.1 溢水した五城目町の馬場目川
 (右岸(図中左)の堤防を溢水)

五城目町で2023年7月14日午後から降り出した降水は、翌15日にかけて151.5mmを記録した。

15日の8時に警戒レベル4(避難指示)、正午過ぎに馬場目川の水位が氾濫危険水位(3.5m)を超え、17時にレベル5(緊急安全確保)となった。その後、町の中心部で浸水が始まり翌朝にかけて被害が生じた。

本報では、一連の経過を降水-河川水位-ダムといったデータ面からの検証に加え、町での聞き取りから分かった災害対応の課題について検討する。

3. 結果と考察

1) 降水の状況と河川の水位、ダムの状況の関係

五城目町で大雨による浸水被害を生じた2023/7/14~7/16の降水量と馬場目川の水位変化をFig.2に示す。降水は7/14の15時頃から観測され、18時に時間雨量12.5mmを記録しているが22時頃には一旦止んでいる。23時ごろから再度降水が観測されて次第に強くなり、7/15の10時に最大時間雨量16.5mmを記録した。最大24時間雨量は139mmとなっているものの、過去の雨量記録では5番目程度のものであった。

河川水位は7/15の早朝から上昇しはじめ、正午に氾濫危険水位(3.5m)を超え、19時にピークの5.18mに達した。東北地方整備局が公開している溢水、越水時刻をみ

1. 弘前大学農学生命科学部: Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University, 2. 宮城大学事業構想学群: School of Project Design, Miyagi University
 キーワード: 災害対応, 社会計画, 集落計画

ると馬場目川では 7/15 の 15:40 頃とされている。同じ水系の上流に位置する内川川では 10:35 頃とより早い段階で溢水を生じていた。また、近隣の流域系統にある萩形ダムでは 7/15 19 時から緊急放流を行っているが、この時点で馬場目川の水位は既にピークに達しており緊急放流後の水位は継続して低下している。町での降水量は“かつてない”量では無かった一方、“これまでにない”浸水を生じた点は注目する必要がある。

馬場目川流域では、現在、河床浚渫が進められ、堤防の整備、河道の変更などが計画されている。検討にあたり町単位ではなく広域的な視点をもった対応が必要といえる。

2) 浸水被害の間接的影響

浸水被害は物的なものに限らず過疎の加速をもたらす。元来、五城目町は人口減少が激しい秋田県の中で最も減少率が大きく-3.9%であり、65 歳以上の高齢化率も 5 割超のため自然減も大きい。聞き取りによれば、浸水に伴い予定を含め十数軒の住宅が解体され、7 月の水害以降、人口、世帯数の減少の加速化が見て取れる (Fig.3)。

3) 災害時にもとめられる「支援」と「受援」をつなぐ仕組み

小さな自治体では災害時に「助けて欲しい」という意識はあっても少数の職員で多くの事案にあたることになり迅速な動きが難しい。町での聞き取りでは支援と受援を繋ぐ仕組みが欠かせないという指摘があった。「受援」とは、一般には被災地における災害ボランティアの受け入れを指すことが多い。しかし、現実にはそれ以前に「どこに、どういう形で助けをもとめてよいのか」というノウハウが求められている。

五城目町では浸水被害後の土砂処理を行うにあたり、作業支援するボランティアが集まった一方、重機が不足する状況があった。この際、参加したボランティアの仲介で宮城県石巻市から 3 ヶ月にわたり重機の無償貸与を受けている。この他、住宅復旧に関わる見積もりに関し、秋田県の建築士会の支援を受けるなど、当事者が現場対応で精一杯な中、仲介者からアイデアを得ることで支援と受援が繋がった例が数多く見られた。緊急時に支援と受援の繋ぎを担う仕組みや体制の重要性を示す例といえる。

4. おわりに

災害発生時に「どのように助けを求めるか」という支援と受援を繋ぐ仕組みは小さな自治体ほど欠かせない。五城目町などの小さな町の過去の事例を整理し、復旧・復興知として共有することが今後の災害対応で重要となってくると思われる。

参考・引用文献：1) 五城目町 Web サイト (<https://www.town.gojome.akita.jp>)、2) 秋田県：2023 年秋田県の人口 ([https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000044493_00/2023\(R5\)年_秋田県の人口.pdf](https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000044493_00/2023(R5)年_秋田県の人口.pdf))、3) 東北地方整備局：令和 5 年 7 月 15 日からの梅雨前線による大雨に係る出水の概要 (<https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/syussuisokuhou/R5.7/shussuisokuhou230715-3.pdf>)、4) B&G 財団 Web サイト：積極的な災害時相互支援の実現 (https://www.bgf.or.jp/activity/m2/2023/20231206_tokyo.html) *いずれも 2024/3/31 確認

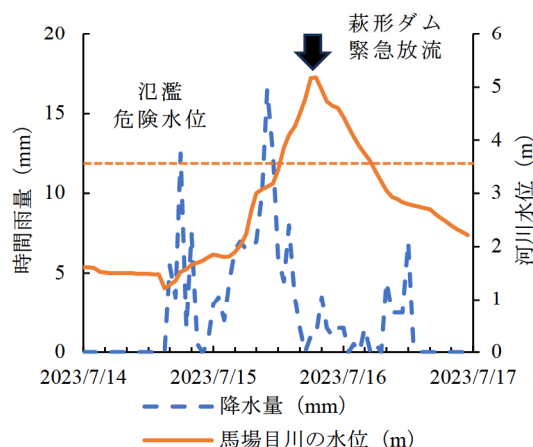


Fig.2 降水量と河川水位の関係

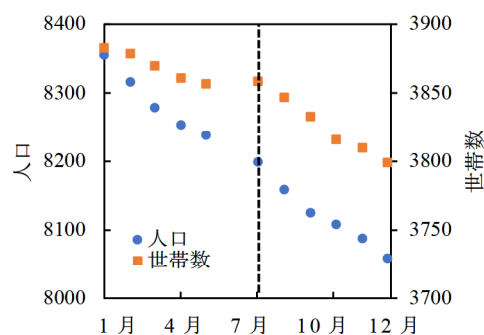


Fig.3 人口と世帯数の変化 (2023)